

**【成果情報名】** 水稻認定品種「イクヒカリ」の特性

**【要約】** 水稻「イクヒカリ」は、「どんとこい」に比べ出穂期で1～4日、成熟期で2～3日早い早生の早である。収量性は「どんとこい」並であるが、対馬では「ヒノヒカリ」より多収である。玄米の外観品質はやや優れ、食味も「ヒノヒカリ」並の極良食味である。

**【キーワード】** イネ、認定品種、イクヒカリ、極良食味

**【担当】** 総合農林試験場・作物園芸部・作物科

**【連絡先】** 電話0957-26-3330、電子メールj-koga@pref.nagasaki.lg.jp

**【区分】** 農産

**【分類】** 普及

### **【背景・ねらい】**

本県では「ヒノヒカリ」が水稻作付面積の約7割を占めており、1品種への集中は収穫作業や共同乾燥施設利用の分散、気象災害の回避等の面から問題となっている。また、対馬では、本土部に比べ高緯度にあるため登熟期間の気温が低く「ヒノヒカリ」は玄米の充実が悪く、収量、品質が低下するため収量性の高い早生品種の選定が求められている。

一方、早生の早である「どんとこい」は、年次により乳白粒が発生しやすく品質の低下がおこりやすいため、作付面積は減少している。

このため「ヒノヒカリ」と熟期分散ができ、かつ「どんとこい」より良質、良食味早生品種の選定が必要である。

### **【成果の内容・特徴】**

「イクヒカリ」（越南148号／北陸148号：福井県農業試験場育成）は「どんとこい」と比較して次のような特性を有する。

1. 出穂期で1～4日、成熟期で2～3日早い“早生の早”である（表1）。
2. 稈長はやや長く、耐倒伏性は同等である（表1）。
3. 穂長は長く、穂数は少なく、一穂粒数は多い（表1）。
4. 玄米の千粒重はやや重い（表1）。
5. 収量性は「どんとこい」並で「ヒノヒカリ」よりやや低収であるが、対馬では「ヒノヒカリ」より千粒重が重く、多収である（表1）。
6. 玄米の外観品質は乳白粒がやや少なく、やや優れる（表1）。
7. 食味は「どんとこい」よりやや優れ「ヒノヒカリ」並の極良食味である（表2）。

### **【成果の活用面・留意点】**

1. 対馬を対象に、「どんとこい」と「ヒノヒカリ」の一部に替えて約100haに普及予定である。
2. 多肥栽培で増収するが、乳白粒の発生が多くなるので、極端な多肥栽培は避ける。
3. 冷めても柔らかく粘りがあり食味が良い（図1）。

**[具体的データ]**

表1 生育、収量、品質

品種名	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	一穂 粒数 (粒)	千粒 重 (g)	精玄 米重 (kg/a)	屑米 重 (kg/a)	倒 伏	品 質	乳白 粒 (%)	背白 粒 (%)
標イクヒカリ	8.12	9.17	75.9	19.5	306	87.4	23.9	50.6	2.6	0.4	4.4	7.5	12.0
どんとこい	8.13	9.19	72.5	17.1	354	77.5	22.7	51.4	3.2	0.1	5.0	12.5	10.7
肥ヒノヒカリ	8.24	10.6	82.8	19.9	320	88.3	23.1	54.0	2.2	0	5.9	3.4	7.4
多イクヒカリ	8.14	9.23	80.7	20.3	362	91.0	23.4	54.5	4.0	0.7	4.3	18.2	1.0
どんとこい	8.16	9.26	79.0	17.8	420	84.9	22.2	55.6	5.7	0.6	4.4	20.3	0.4
肥ヒノヒカリ	8.25	10.9	87.8	19.8	368	87.8	23.3	61.4	2.4	0.4	4.7	11.0	3.2
対イクヒカリ	8.8	9.17	70.2	18.7	288	-	23.8	50.0	1.2	0	3.0	6.6	2.0
どんとこい	8.12	9.20	65.7	16.6	336	-	22.5	49.2	2.8	0	3.2	4.1	2.5
馬ヒノヒカリ	8.27	10.12	73.6	18.0	342	-	21.6	39.5	4.4	0.1	7.7	3.4	0.3

注1) 標肥、多肥は農試データ

- 2) 標肥：移植期6月17日、施肥量(Nkg/10a) 基肥-追肥-穂肥=5-2-3 (2001~2005年)
- 3) 多肥：移植期6月17日、施肥量(Nkg/10a) 基肥-追肥-穂肥=7.5-2-4.5 (2001~2003年)
- 4) 対馬：移植期5月30日、施肥量(Nkg/10a) 基肥(緩効性肥料) 6.0 (2001~2003年)
- 5) 品質：1(上の上)~9(下の下)の9段階表示

表2 食味試験結果

実施年月日	品種名	総合	外観	香り	味	粘り	硬さ	パネル数
2001.11.21	イクヒカリ	-0.043	-0.043	-0.087	0.000	0.174	-0.217	23人
	どんとこい	-0.478**	-0.478**	-0.391**	-0.304	-0.348	-0.174	
2002.12.11	イクヒカリ	0.045	0.045	-0.273*	0.045	0.227	-0.182	22人
	どんとこい	-0.227	-0.227*	-0.182	-0.136	0.045	-0.318	
2003.11.12	イクヒカリ	0.000	0.476	0.095	-0.095	0.048	-0.718**	21人
	どんとこい	0.000	0.333*	-0.333**	-0.048	-0.048	0.048	
2004.11.18	イクヒカリ	0.200	0.300*	-0.100	0.050	-0.150	-0.050	20人
2005.11.18	イクヒカリ	-0.118	0.235	0.000	-0.059	-0.176	-0.176	17人

注1)\*\*は1%、\*は5%の有意水準で基準品種と有意差があることを示す

2) 基準品種はヒノヒカリ

**[参考]**

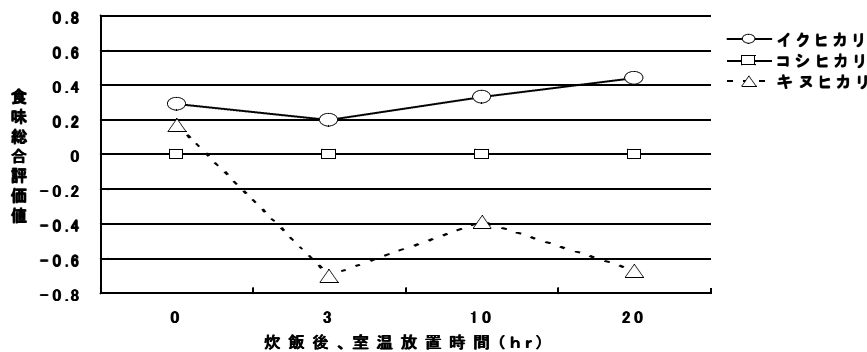


図1 室温放置時間と食味の関係 (福井県農試)

**[その他]**

研究課題名：稲・麦・大豆奨励品種決定調査  
 予算区分：県単  
 研究期間：2001~2005年度  
 研究担当者：古賀潤弥、土谷大輔、佐田利行、岳田司